

報道関係 各位

国内 MICE 施設初！国際規格「ISO 20121:2024」認証を取得 ～国際基準のイベントサステナビリティ・マネジメントシステムにより、第9回アフリカ開発会議の開催もサポート～

パシフィコ横浜（正式名称：株式会社横浜国際平和会議場、所在地：横浜市西区、代表取締役社長：林 琢己）は、2025年7月10日、持続可能なイベント運営のためのマネジメントシステム規格である「ISO 20121（イベントサステナビリティ・マネジメントシステム）」認証を取得し、7月16日にBSIグループジャパン株式会社（本社：横浜市西区、代表取締役社長：漆原 将樹）より、認証書が授与されました。同認証の取得は、国内 MICE^{※1} 施設において初めて^{※2}となります。



認証授与式（左から）BSIグループジャパン(株) 代表取締役社長 漆原 将樹氏、パシフィコ横浜 代表取締役社長 林 琢己

ISO 20121 は、イベント運営における環境への影響に加え、その経済的、社会的側面も含めて管理することで、イベント産業の持続可能性を支援する、国際的に認められた規格です。

日本は、2024年の国際会議開催件数で世界7位^{※3}となりましたが、政府は、「新時代のインバウンド拡大アクションプラン^{※4}」において、2030年までに世界5位以内を目指しています。そのような状況のなか、国内 MICE 施設における国際会議の開催件数21年連続首位^{※5}の当社は、今回の認証取得を活かして、サステナビリティに関する国際的な認証の取得事例が増えている海外 MICE 施設との競争力を高め、1件でも多くの国際会議を誘致することで政府目標の達成に尽力するとともに、国内 MICE 業界におけるサステナビリティの取組をリードし、日本の MICE 産業の更なる発展に貢献してまいります。

また、8月20日～22日には、当施設で「第9回アフリカ開発会議（TICAD9）」の開催が予定されており、国際基準のイベントサステナビリティ・マネジメントシステムによる施設の提供や開催サポートを通じて、パシフィコ横浜一丸となって会議の成功に向けて取り組んでまいります。

- ※1 MICEとは、Meeting(企業等の会議)、Incentive Travel(企業等の行う報奨・研修旅行)、Convention(国際機関・団体、学会等が行う会議)、Exhibition/Event(展示会・見本市、イベント)などのビジネスイベントの総称。
- ※2 公表されている情報をもとに自社調べ（2025年7月30日時点）
- ※3 ICCA（国際会議協会）統計。
関連 URL（日本政府観光局からのお知らせ 2025年5月29日公表）：[ICCAより2024年の国際会議統計が発表](#)
- ※4 令和5年5月30日観光立国推進閣僚会議で決定。関連 URL：[新時代のインバウンドアクションプラン](#)
- ※5 日本政府観光局 国際会議統計において、大学・ホテルを除く MICE 施設別の国際会議開催件数として 2003年～2023年までの21年連続でパシフィコ横浜が首位を獲得。

【BSI グループジャパン(株) プレスリリース】

URL：<https://www.atpress.ne.jp/news/444246>

■ ISO 20121 の概要

ISO 20121 は、イベント運営における環境への影響に加え、その経済的、社会的側面も含めて管理することで、イベント産業の持続可能性を支援する、国際的に認められた規格です。

イベントの持続可能性を支える国際規格「ISO 20121」は、2007年にBSIが開発に関わったBS 8901に基づき策定が進められました。BS 8901は、環境・社会・経済のバランスが取れた持続可能な大会を運営することを目的に開発された英国規格です。その後、国際大会での実践的な活用を通じて、より包括的で国際的な枠組みが求められ、国際規格としてISO 20121が正式に発行されました。以降、ISO 20121は日本を含む複数の国々で開催された国際的イベントにおいても導入され、持続可能なイベント運営の基盤として採用されています。

■ 取得内容

認証規格	ISO 20121:2024
適用範囲	株式会社横浜国際平和会議場による、次に関連するイベントサステナビリティマネジメントシステム 1. パシフィコ横浜（国立大ホール・会議センター・展示ホール・アネックスホール・ノースと、これらに付帯する施設）の催物に関わる施設の提供及び管理運営 2. 指定管理エリアのうち、臨港パーク・国際交流ゾーンの催物に関わる施設の提供及び管理運営 3. 会議・催物・展示用機器、事務用機器及び什器備品の提供 4. 国際・国内会議、見本市・展示会をはじめとする催物の誘致及び開催サポート
審査登録機関	BSI グループジャパン株式会社
認証取得日	2025年7月10日



SEMS 825049

■ 取得による効果

今回の取得にあたっては、“将来にわたって運用し続けられる仕組みを”を取得方針として、現在の運用をベースとしながら、規格の要求事項に合わせた見直しや新たな仕組みづくりを行いました。それにより、当社の内部・外部において以下の効果を得ることができました。

内部の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・規格の要求事項に合わせて自社の取組や業務フローを見直すことにより、サステナビリティに必要な取組を補強 ・サステナビリティへの取組を体系的に管理し、継続的な改善を行う仕組みの構築 ・目標管理において、個人の課題ではなく、課単位で取り組みやすい仕組みの構築 ・認証取得に向けて、全社で協力・連携を強化
外部の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の国際的な競争力強化（客観的な評価をもって、サステナビリティへの取組をPR） ・近年、国際会議主催者を中心に高まっているサステナビリティに対する要求への対応 ・ステークホルダーとの信頼関係構築と企業価値の向上

■ パシフィコ横浜のサステナビリティへの取組について

当社は、2023年6月にサステナビリティ方針を掲げ、事業を通じて解決に取り組む8つのマテリアリティ（重要課題）を特定し、それぞれのマテリアリティに対して2030年に達成する目標を定めました。今年度から始まった3年間の新たな「中期経営計画 2025-2027」においても、サステナビリティの推進を最重要課題とし、取組を加速させています。

<これまでの主な取組実績>

環境	<ul style="list-style-type: none"> ・MICE 施設におけるエネルギー使用に伴う CO₂ 排出量の実質ゼロ化を実現^{※6} ・サステナブル WEB デザインを取り入れた、公式サイトのフルリニューアルにより、年間の CO₂ 排出量を 6.8t-CO₂e 削減^{※7} ・臨港パークでの電力使用に伴う CO₂ 排出量の実質ゼロ化を実現^{※8} ・太陽光発電ガラスを展示ホールに常設^{※9} ・サステナブルな MICE 運営をサポートする取組として、サステナブルな商品の販売^{※10}
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・臨港パークで主催事業を開催し、地域の賑わいを創出（パシフィコ横浜保護犬サポートプロジェクト Wan Bonheur、ザ・昭和歌謡パラダイス等） ・地域の観光・MICE の推進を目的として、県内自治体や地域事業者と包括連携協定を締結（横浜高速鉄道㈱、横浜中華街発展会協同組合、伊勢原市、協同組合元町エスエス会、横須賀市） ・総合案内カウンターに 5ヶ国語対応可能な遠隔案内サービスを導入^{※11}
ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> ・全社一丸でのサステナビリティ推進を目的とした、サステナビリティ推進委員会の設置

- ※6 関連リリース（2025年4月22日発表）：[パシフィコ横浜は、2050年の目標を前倒してエネルギー使用によるCO2排出量の
実質ゼロ化を実現 ～2024年度分として約9,000t-CO2の削減～](#)
- ※7 関連リリース（2023年12月22日発表）：[サイトリニューアルでCO2排出量4割削減！](#)
- ※8 関連リリース（2023年10月30日発表）：[臨港パークでの電力使用による「CO2排出量実質ゼロ」へ！](#)
- ※9 関連リリース（2025年6月26日発表）：[太陽光発電ガラスを展示ホールに常設](#)
- ※10 関連リリース（2023年12月8日発表）：[「ペーパー・サインボード」と「廃棄物カルテ」を主催者向けに販売開始、](#)
（2024年2月9日発表）：[パシフィコ横浜×崎陽軒 MICE主催者むけに「サステナブル弁当 みちびき」の販売開始](#)
- ※11 関連リリース（2024年3月19日発表）：[施設内の総合案内カウンターに、遠隔接客サービスを導入します](#)

＜取材のご希望、本件に関するお問い合わせ先＞

パシフィコ横浜 経営推進部 経営企画課 木村・土屋 TEL：045-221-2159

お問い合わせフォーム：<https://www.pacifico.co.jp/press>